

委員長 本日の議事録署名人を指名させていただきます。NPO 法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット神戸 茂木美知子様、男女共同参画公募委員の松本由美様の2名にお願いしたいと思います。

では、議題の1「加東市配偶者等暴力対策基本計画策定に向けた意識調査の結果について」の説明を事務局からお願いします。

[事務局から資料No.1、No.2、No.3に基づいて説明]

委員長 議題1「加東市配偶者等暴力対策基本計画策定に向けた意識調査の結果について」の説明に何かご意見、ご質問はございませんか。

[質疑なし]

委員長 議題2の「配偶者等暴力DV対策基本計画の体系（改正案）について」の説明を事務局からお願いします。

[事務局から資料No.4に基づいて説明]

委員長 議題2の「配偶者等暴力（DV）対策基本計画の体系（改正案）について」の説明に何かご意見、ご質問はございませんか。

それでは、基本計画の体系の変更ですが、例えばシェルターと自立支援施設で安全確保をし、そこから違う場所に行く時もあると思います。例えば、アパートとかそういう物的環境を分けるという意識も含まれていますか。市町村の連携もありますか。市内の中だけでの保護ですか。

事務局 市内だけではなく、広域的な連携を考えています。

委員長 はい、わかりました。DVを許さない意識づくりの推進も、非常に言葉は簡単ですが難しいことで、意識はすごく根深いところにあります。例えば、神戸市と加東市では違うところもあると思います。その土地の特色のある支援を市の方も考えていかなければならないと思います。

委員 アンケート調査では、全国的な調査結果と比べて加東市独自の結果はありましたか。

事務局 資料No.1の意識調査14ページにもあらわれていると思いますが、学生に対してデートDV授業を行っていることで「デートDV」の認知度が高いという成果がでていると考えます。全国のH25年の調査では27.4%で、加東市は43.3%の結果も出ていますので、授業の成果が出ていと捉えています。

委員長 他の市町村の統計と比較してもよいかもしれませんね。

委員 33～34ページで、交際相手から暴力を受けたことを相談しなかった理由で、「相談するようなことではないと思った」とか「自分にも悪いところがあると思った」「我慢すればいいと思った」が割と多いです。自分の責任と感じるなど、自分の方を軽視する傾向が国より10%くらい多いな、と感じます。それは私が相談する現場でも思います。自分の主張をするより自分の責任にしてしまうという傾向がこのデータに出ているなという感じがしました。

委員長 暴力を受けるというメカニズムが、自分自身の自己価値を下げてしまいます。それを恥と思い、相対的に自分が悪いと思うことによって悟ってしまうというところがあるのかなと思います。そう思われるのが自然なことで、それが暴力のメカニズムだという話をいろんなところでしていただくことに意味があるのかなと感じます。

委員 相談体制の充実というところで感想と提案ですが、相談窓口を周知してもなかなか相談に来られない。知っている人だから話しにくいというところもありますので、方法的な部分をもう少し考えられたらいいかと思います。このアンケート結果を見ても「窓口の周知を図る」が6割の回答が出ています。もう少し具体的に受け入れられ易い体制を考えるといいと思います。

委員長 「誰に相談するか」の設問で、友人や知人と答えた方が多いので、「あなたの友達はDVを受けていませんか。」と問いかける方法もあると思います。「一緒に相談に来てください。」という呼びかけるものもあればいいと思います。ソーシャルワークをしていただけるのは、あくまでも専門家だけではなく、友人や知人という本人にとっては心強い存在で、1人ではとても行けないけれども、2人だったら行けるという意見もあると思います。

事務局 加東市だけというわけではなく知り合いがいるから相談しにくいのであれば、小野市なら相談しやすいとか、相談場所を変えるとする方法もあると思います。知らない人だから話せるというところもあるので、市町間の連携も必要になるのかなと思います。

委員 そうですね。そういった機関の周知をされた方が相談に行きやすいとは思いますが。

委員長 婚姻関係は割と近場が多いですね。他市との連携は必要だと思います。フローチャートみたいなものがあり、心が折れたら違う場所へ相談に行くなどがわかるような手掛かりになるものがあると良いと思います。

委員 加東市は子どものことを早くから注目されていますし、講演会をなさったりして、割と先を行っていると思います。やっとな遅れて面前DVが社会問題化されていますが、それは本当に潜在的にあると現場ではずっと思っていました。本当に子どもたちの生活再建や自立は大変です。実感としてそれは感じていて、虐待のアンケートも取られていますが、40代の女性が虐待の経験が8%あったというのは、見過ごせない数字だと思っています。それはひょっとしたら面前DVということが、社会的に周知されてきて、前は叩かれるなど本当に身体的な暴力でしか虐待であるという認識がなかったが、そうではなくて精神的な虐待も虐待だという認知が出来てきたところもあるのではないかなと思っています。安全確保はもちろん、生活再建のところにも子どもを含めて考えていくのが必要だと思います。私は日々、相談の場と自立・生活再建という2つの現場を持っていると本当に子ども時代にケアできていたら自立してやっていけたらと思う人が、ずっと放置されていたために、大人になってからの再建というのは本当に大変です。行政的にすごくコストもかかりますが、親と子の関係にも問題がある場合があるので、DVを受けた家庭の子どもの支援というあたりのメンタルなところを含め学校関係などで、ぜひ見ていただけたらと思います。

委員長 それでは、議題の「今後のスケジュールについて」事務局から説明をお願いします。

〔事務局から資料№5 に基づいて説明〕

委員長 議題3「今後のスケジュールについて」の説明に何かご意見、ご質問はございませんか。

委員 兵庫県のDV基本計画の改定も来年度作業を進める予定になっております。スケジュールも加東市と同じようなスケジュールになりますので、まだどういう形になるかはこれからですが、その作業自体は本庁が担当になりますので、そのあたりも情報収集していただいてこちらの計画に盛り込めるものがありましたら、そのあたり反映していただけたらいいかなと思います。それと、先ほどからも話に出ていましたが、それぞれの地域的なそれぞれの取り組みの中での特色、地域的な要素みたいなものがあるのかなと思います。どうしても郡部の方は、相談先が役所だと、顔見知りであったりとか知っている人がいるとかで、相談しにくいという話があったり、逃げるにしても、今までの生活から離れることや子どもの教育関係のことなど難しいことがあるのかなと思いますので、加東市の配慮が必要なところや、どんなところに課題があるのか、そのあたりも掘り下げて検討していただけたらありがたいかなと思います。よろしくお願いします。

委員 DVもそうですが虐待・いじめも、受け取る側が暴力と感じたら暴力だと思います。それをDVされていると気づかない人もいます。受け止め方はみんな一緒ではないため、感じ方も違うし生きてきた環境や考え方その人の資質にもよるものだから、解決がそもそもできる問題ではないのかな、と感じたりします。受け止める側も、する側もなぜDVするのか、本人自身も分からずにやっている人もあると思います。日々生活しながら思うことは、生まれた時の自分の環境であったり、身近な親など、周りの関わる側が、愛とか感謝を教えていくことで、自分が大事にされていれば、人を傷つけることは考えないと思うので、生まれた時からの過程が大事だと思います。

委員長 虐待防止法は20年前にできました。それ以前はある意味当然のこととして子育てとか躾という形で暴力や暴言もその中に含まれ、愛情として受け止めている人も大勢いました。その時代がここまで来て、「いやいや、それで傷つくことや脳に影響がありますよ。」「それが世代間の問題になりますよ。」ということが科学的に解明されてきています。でも、それまでの私たちって何だったのだろう、子育てってどういうことだったのだろうと、そう思っている人もいるのかなと思います。愛情を愛情として受け止め、時にはそれは暴言だったけれども、あの言葉で気づいたということはあると思います。その辺りがすごく混乱している、混沌としているということはあるかなとは思っています。

委員 子どもたちがこれから被害にあったり、加害者の立場にならないように、教育することが大事だなと改めて感じました。

委員長 他にご意見、ご質問ございませんか。ないようですので、これをもちまして、第2回加東市配偶者等暴力対策基本計画策定委員会の議事を終了させていただきます。進行を司会の方に返します。お願いします。

〔事務連絡〕

〔閉会あいさつ〕

〈資料名〉

資料№1 DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する市民意識調査報告書

資料№2 男女共同参画のまちづくりのための意識調査自由記述

資料No.3 高校生デートDVに関する意識調査自由記述
資料No.4 配偶者等暴力（DV）対策基本計画の体系（改正案）
資料No.5 平成30年度加東市配偶者等暴力（DV）対策基本計画策定委員会
スケジュール（案）

平成30年3月16日

議長 海野千畝子 ㊟

署名人 茂木美知子 ㊟

署名人 松本由美 ㊟